

令和7年度 第1回阿見町地域福祉計画策定委員会 議事録

日 時:令和7年7月 29 日(金) 午前 10 時から 11 時 28 分まで

場 所:阿見町役場4階 全員協議会室

出 席:松田委員長、武藤副委員長、新橋委員、青山委員、下村委員、佐藤委員、田邊委員、大竹委員、加川委員、笠井委員、武井委員、苫米地委員、荒井委員、小林委員、戸井委員（欠席:下司委員）

1. 開会

2. 委員長挨拶

本年度は町の計画策定に向けた重要な時期であり、議員の皆様のご意見をいただきながら進めたいと考えている。市制化に向けた課題もあるため、活発な意見交換をお願いしたい。

3. 自己紹介

4. 協議事項

(1)今後のスケジュール(資料1)

《事務局から資料1について説明》

地域福祉計画策定委員会は、以下のとおり今年度において4回の開催を予定している。

2025年9月 （第2回）:計画の骨子案を検討

2025年12月 （第3回）:計画素案を検討

（2026年2月 パブリックコメント実施）

2026年3月 （第4回）:計画内容について承認

(2)令和6年度進捗状況報告(資料2、資料3)

《事務局から資料3について説明》

※資料2の説明は割愛。

「第3次阿見町地域福祉計画 目標値」について、以下の内容を説明。

①福祉への関心度

「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した割合は合計で 84.3%(令和 2 年比+8.7 ポイント)、目標である 85%に概ね到達した。

②保健福祉施策への満足度

「とても充実している」、「まあまあ充実している」と回答した割合は合計で 56.7%(令和 2 年比+2.7 ポイント)で、目標である 70%に届かず。ニーズの多様化・複雑化に既存の縦割り支援が対応しきれていないことが要因と考えられる。

③福祉サービス情報の入手度

「十分入手できている」、「十分ではないが、入手出来ている」は合計で 36.6%(令和 2 年比+2.4 ポイント)で、目標である 40%に届かず。多様な媒体での情報発信が必要であると考えられる。

④地域予算制度に基づく地域づくり会議の設置数

11 地域に設置済み、目標である 8 地域での設置を達成。

⑤地域子ども食堂の開設箇所

11 カ所で開設済み、目標 7 カ所での開設を達成。

⑥ワンストップで対応できる総合相談窓口の設置

庁舎内に専用窓口は未設置であるが、各担当職員によってワンストップ対応を行っている。

⑦権利擁護に関する普及のための周知回数

広報での周知を 1 回、介護教室による周知を 1 回実施。目標値が広報での周知3回、講演会での周知が2回であるため目標に届かず。

⑧成年後見サポートセンターの設立

令和 7 年 6 月に社会福祉協議会内に開設。

⑧地域防災活動の充実(地区防災計画・避難計画の作成)

全 67 区中、45 行政区で作成済みだが、目標 55 区には未達。

《質疑応答》

○地区防災活動の充実について

松田委員長

②の保健福祉施策の満足度については、ニーズの多様化により目標の 70%の達成が難しい状況にある。高齢者支援においては、介護と子育てが重なるダブルケアなど介護者にも様々な背景があり、ニーズが複雑化している現状がある。委員の方の経験も踏まえながら、このような課題への対応を一緒に検討していきたい。

田邊委員

⑧の地域防災活動の充実については、地区によって土地柄が異なることや、現段階で目標を下回っていることを踏まえ、町の防災危機管理課の方で地区防災計画や避難計画策定

の旗振りをお願いしたい。

(3)町民アンケート報告について(資料3)

《事務局から資料3について説明》

「阿見町地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果 報告書」について説明。

【アンケート調査の概要】

(1)町民アンケート調査

調査対象者は阿見町に住民登録のある 18 歳以上の町民の方の中から無作為に抽出した 2,000 名とした。

(2)民生委員・児童委員アンケート調査

調査対象者は、町内で活動している民生委員・児童委員81名とした。

【アンケート結果の概要】

- 住んでいる地区の暮らしに関する満足度については、「福祉・保健サービスや相談体制」、「地域の防災・防犯体制」の項目で「どちらとも言えない」と回答した方が半数を超えている。最も満足度が低かった項目は「交通機関の不便さ」であり、一方で「買い物の便利さ」については満足度が高い。
- 地域の中で気になることとしては、「移動手段の不足」や「緊急時の対応」が多く挙げられている。
- 日常生活での悩みや不安では、「自分の家族の健康に関すること」が最も多く、次いで「生活費などの経済問題」が前回調査より 6.4 ポイント増加しており、物価高騰などの影響がうかがえる。「災害に関する不安」も 23.9%の方が挙げており、防災への意識の高さが見受けられる。
- 悩みや不安の相談相手としては「家族・親戚」が最も多く、一方で「誰にも相談しない」と回答した方も 5.6%存在する。
- 保健福祉施策を充実させるために重要と考える取り組みとしては、「交通の利便性の確保」が 34.1%で最も多く、続いて「安心して子どもを産み育てられる環境の充実」が 31.0%で、前回調査より 6.9 ポイント増加しており、子育てに対する関心の高まりがうかがえる。
- 民生委員・児童委員のアンケートでは地域での人と人とのつながりの希薄化が多く課題として挙げられている(42.9%)。

《質疑応答》

田邊委員

地域の高齢者がこれからも増えていくことになるため、地域の移動の問題が深刻化すると考えられるので、対策をお願いしたい。

大竹委員

運転免許証を返納したが、公共交通機関を利用しての生活は不便であると感じている。

田邊委員

公共交通機関の問題については、代替え方法等について区長や民生委員など、地域福祉のリーダーが先導して取り組むことが重要なのではないか。

加川委員

高齢者が病院に行く際の移動手段に課題があると考えている。免許返納後や車を持たない高齢者は、予約はできても帰りの足が確保できず、タクシーは頻繁に利用できない。移送手段不足は今後さらに深刻化する可能性があるため、長期的な視点で帰宅手段も含めた対策が求められる。

武藤委員

議会にて行われた公共交通機関に関する答弁では、あみまるくん(デマンドタクシー)を土日に実験的に運行し、その結果を受けて本格的に導入することについて検討するとのやり取りがあった。引き続き、地域福祉計画策定委員会にて出た意見についても都市計画課の方に伝えていきたい。

※コミュニティバスの導入については利用に関する需要が多くないことが見込まれるため、検討段階にあるとのこと。

大竹委員

あみまるくんは便利だがなかなか予約がとれず困っている。

笠井委員

困りごとが多様化していることに関して、町としてどのように取り組んできたか。また、計画における目標値はどのように決定したのか。

事務局

計画における目標値の項目や具体的な数値は策定委員会で決定する予定。

松田委員長

多様化しているニーズについてどのように取り組まれているか。(笠井委員の質問の補足)

事務局

主に若い方を中心とした WEB での手続きについてのニーズに答えることと並行して、紙媒体での手続きも残していく方向で対応している。

笠井委員

アンケート調査の中で、悩みや不安を誰にも相談しないという割合が一定数あった。こういった問題に対して策定委員会の中で積極的に関わっていききたい。

事務局

子育て環境の充実に係る取り組みについては、現段階において医療費を 18 歳まで無償化しており、保育園や認定こども園の整備を実施している。他にも子ども総合支援センターの設置を予定、また、児童発達支援センターの整備を検討している。加えて、ランドセルの無償配布、出産祝い金等を導入しており、これからも町民のニーズを把握した上で新たな取り組みについて検討を進めていきたい。

田邊委員

アンケートの項目について、「日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか」との質問に対し「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」と回答した割合が前回調査よりも減少し、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」と回答した割合が前回調査よりも増えている。このことから、地域の課題に対して自分たちで取り組もうという意識が特に若い世代で薄らいでいることが伺える。これに対しては、阿見町全体として地域を助ける風土を根付かせるような取り組みを増やしていくのがいいのではないかな。

武藤委員

先ほどお話にあったアンケート結果について、20代～60代は普段働いているので、地域に関することは行政に任せたいという意思が伺える。このことから、働いている世代にもアプローチできるような取り組みを実施することが効果的と考えられる。

また、資料3に記載されている成年後見サポートセンターについては設置済みとされているが、どのように運用されているか教えてほしい。

松田委員長

成年後見サポートセンターについては、設置したばかりということもあり、運用に関する報告は後ほどいただければと思う。

武井委員

自治会活動について、各地区の加入率等を教えていただければと思う。

荒井委員

農村地域、市街地など地域によって差はあるが、阿見町全体として加入率は減少傾向にある。区長会とも情報共有を図りながら自治会の加入率向上や地域コミュニティの問題に取り組んでいきたい。

武藤委員

阿見町の多くの自治会が認可地縁団体として指定されていると思うが、認可要件である50%の加入率を下回った場合でも認可が取り消しになることはないのか。

荒井委員

阿見町としては判断しがたいが、地域活動が衰退しなければ問題ないと考えている。

新橋委員

借家に住む方は地域活動にあまり関心を示さない傾向があることから、自治会への加入率はあまりよくない。これは全国共通の問題であると考えており、解決策としては加入メリットを周知していくことが考えられる。また、福祉への関心を高めるために、目玉となる施策を町で考えてほしい。

事務局

福祉への関心を高める対策については、他市町村の動向を注視しながら計画に盛り込んでいきたい。

(4)第4次計画について(資料4)

《事務局から資料4について説明》

「資料4 阿見町地域福祉計画策定方針」(計画策定の目的、内容、計画期間、重層的支援体制等)について説明。

《質疑応答》

松田委員長

再犯防止推進計画について、地域福祉計画と一体的に盛り込む形で進めていきたいと考えている。

武井委員

犯罪を犯してしまった人は地域から孤立しがちなので、地域福祉の観点からのアプローチを図るためにも地域福祉計画に包含するのが適当であるとする。

笠井委員

どれくらい具体的な項目まで地域福祉計画の中に盛り込む予定か。

事務局

現段階において踏み込んだ具体的な内容を盛り込むことは難しいと考えている。内容としては、保護司や更生保護女性会への支援などの内容を盛り込んでいきたい。

笠井委員

再犯防止推進計画について、就労支援と住居確保の部分は特に重要だと考えているので、委員会において議論していきたい。

松田委員長

再犯防止推進計画を地域福祉計画に盛り込むことについては承認としてよろしいか。

(異議なし)

(5)その他

武井委員

市制への移行にあたり、地域福祉計画について他の市ではどのように策定しているかお伺いしたい。

笠井委員

茨城県の地域福祉計画の策定委員を務めており、市町村の地域福祉計画についてある程度把握はしているが、大きな差はない。

田邊委員

他の市町村の計画を参考にし、よりよい計画づくりに生かせればと思う。

5. 閉会